

Effective Collaboration

コラボレーションの質を高める

— 人と環境にやさしい空間創造 —



Steelcase[®]
Authorized Dealer

ハイブリッド・コラボレーションを機能させ、質を高める

オフィスが対面でなく画面上でつながる環境になる中で、目的意識や帰属意識を共有しながら成果を上げていく必要があります。

ハイブリッド・コラボレーションスペースの設計



01 全員がカメラの方を向くように空間のレイアウトを設計する

会議室の場合には、従来の長方形の部屋の縦（短い壁の方を向く）ではなく、横（長い壁の方を向く）に向きを変えることなどが挙げられます。また、円弧を描いて座るなど全員が公平にカメラの方を向くようにすると、両端の人も無理なく全員をカメラに収められます。互いに視線を合わせ、細かな表情も読み取ることで対話がスムーズになり、会議への集中力も増します。オープンな空間では、ハイバックチェアや間仕切り等を利用し、プライバシーも確保すること、また、配線コードをまとめるフックや私物を置ける収納スペース付き家具を使用すると身の回りをすっきりと整理できます。



02 会議室では、テーブルを囲む全員が視認できるようにカメラを中央に配置するカメラの視野角度に動線上の人や余分なものが映らないようにしましょう。ガラス壁の開放的な会議室では、ガラスにプライバシーフィルムを貼るなど情報漏洩などの対策を講じましょう。オープンな空間では、通路や隣接する同僚が視野角度に入らないようにカメラの位置を工夫すること。周囲のノイズや余分な動きが会議の邪魔になります。



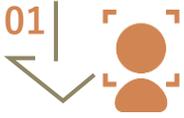
03 壁や天井に反射して拡散する残響音や反響音などを考慮し、明瞭な音声とプライバシーに重点を置く

吸音性という観点から、布張りの壁や間仕切り、チェアやカーペットなどが役立ちます。デバイスや機器の音声調節を利用したり、反対側に布張りの吸音性の高い間仕切りを配置することも効果を発揮します。騒がしい場所ではノイズ抑制機能付きのマイクを使用し、スピーカーの音量設定は「低」に設定。人との間に距離がある場合には、セカンダリーマイクを使用しましょう。



04 ソーシャルスペースを機能させる設計

人間は、他者と関わりたい（つながりたい）という本能的な社会的欲求を持ちながらも、時に他者と距離を置きたいという相反する欲求に駆られます。「ソーシャル」スペースを機能させるには、この両方をバランス良く満たすこと。そして、チェア背後を囲ったハイバック機能やプライバシーレベルを調節できる間仕切り、集中ワークやコラボレーション、雑談といった1日の多彩な活動をサポートすることを念頭に置きましょう。



全員がカメラの方を向くように空間のレイアウトを設計する

コラボレーションの種類

情報型：情報の共有や業務調整

評価型：選択肢の検討と意志決定

生成型：今までにないアイデアの生成と複雑な問題解決



ハイブリッドコラボレーションの課題

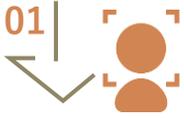


情報型と評価型コラボレーションは、WEBを介して簡単に行うことができます。しかし、通常的环境でも難しい生成型コラボレーションは、WEB環境となるとそのハードルはより高くなります。WEB会議を経験している多くの人が、**コンテンツ共有の際に表情や視線、間合いや空気感など非言語メッセージを読みとるのに苦勞**をしています。

人は五感を駆使して会話をしています。**相手の視線、顔色、声のトーン、表情、仕草を暗黙に感知し脳が処理を行い会話が成り立ちます。**しかし、WEB会議では五感が捉えられにくく会話が成り立ちにくいです。よく言われる「ZOOM疲れ」です。**多くの視覚的情報が限られるために脳がフル活動し、通常よりも疲れ易くなる**と言われています。

これから必要な場

人が集い、共有し、ブレストし、コラボレーションする多種多様なスペース。創造性を促し、イノベーションを生み出す「場」が必要です。



全員がカメラの方を向くように空間のレイアウトを設計する

公平に会議に集中できる環境



今日のコラボレーションはリアルとリモート両方の参加者が混在するハイブリッド型が多く、このことを意識したスペースの創出が必要です。リアルとリモート、参加人数、コラボレーションタイプなど多種多様に対応する設計、リアル、リモート両方の参加者にとって公平に会議に集中できる環境構築をすることで効果的なコラボレーションが可能になります。

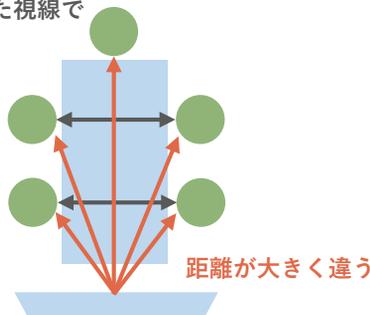
四角い家具や直線的なレイアウト配置から、扇型形状など曲線を生かした家具を利用することで、両端の人も含め、部屋の全員を無理なく映像に収めることができるため、リモート参加者は**全員**の表情や仕草から細かな反応を読み取ることができます。リアルとリモート参加者全員が目線を合わせながら対話ができ、公平かつ親しみがある印象を与えます。最上のWEB体験には使用するミーティングテーブル形状が今後は極めて重要な要素になります。

ポートレートからランドスケープ

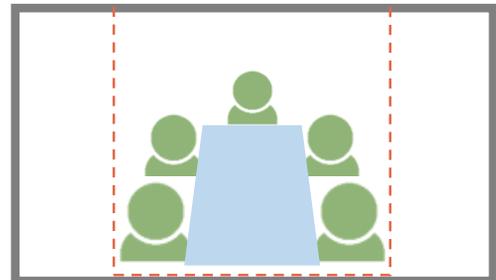
ポートレート（肖像画）からランドスケープ（風景画）にシフトすることで、カメラの両サイドにいる人々が互いに見やすく、また見られやすくなります。部屋にいる全員がカメラに対して**等距離**になることになります。リモートでの参加者は、**表情やボディランゲージを確認しやす**くなります。

直線

リアル側は向き合った視線でリモート側を見ない

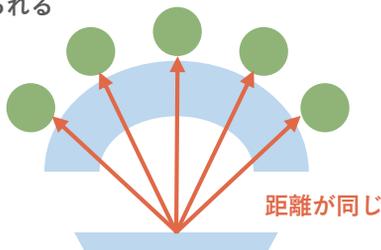


ポートレート
撮影対象範囲



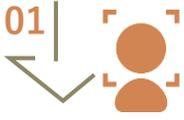
曲線

リアルとリモートの参加者全員が視線を合わせられる



ランドスケープ
撮影対象範囲





全員がカメラの方を向くように空間のレイアウトを設計する

新しいハイブリッド形状のテーブル

Ocular™ 【オキュラー】 by Steelcase

対面での会議参加者にもリモートでの参加者にもより公平な体験をもたらします。



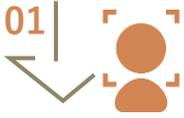
会話に花が咲くWEBコラボレーションテーブル

Florea 【フラリア】

ハイブリッドコミュニケーションを成功させるテーブル



リアル参加者がリモート参加者と目を合わせながら話せて、画面コンテンツを情報共有できること。それと同時にリアル参加者全員を視認しながら活発にコミュニケーションできることが極めて重要です。



全員がカメラの方を向くように空間のレイアウトを設計する

セミナー時の公衆距離を考慮し価値を生み出す「場」

CoStair 【コステア】

オープンコラボレーションスペースでのプレゼンテーションやセミナーをより一体感のある空間へ



カジュアルに使える設計で創造的なアイデアの共有や活発な議論を促進します。コミュニケーションが生まれ、新しい価値を創り出す理想の「場」を提供します。



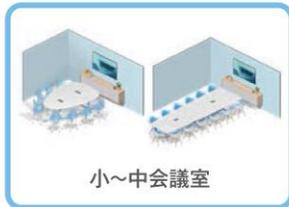
会議室では、テーブルを囲む全員が視認できるようにカメラを中央に配置する

ビデオを簡単に導入してハイブリッドコラボレーションを強化

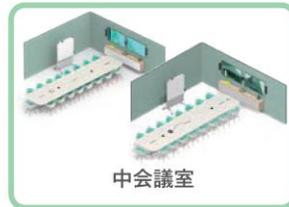
■一体型カメラマイクスピーカー



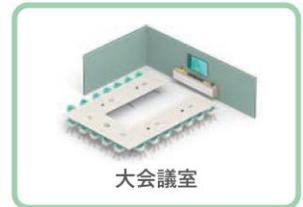
会議室内



小～中会議室



中会議室



大会議室



MEET-UP



Rally Bar Huddle



Rally Bar MINI



Sight



遠くに見えない相手も



まるで目の前にいるかのように



Rally Bar



Rally PLUS



壁や天井に反射して拡散する残響音や反響音などを考慮する

適切な吸音効果で集中力向上やストレス軽減



硬質吸音フェルトボード



硬質吸音フェルトボード・台形タイプ

■オプション



専用カッター(45°)



専用ピン



マグネット

¥2,300

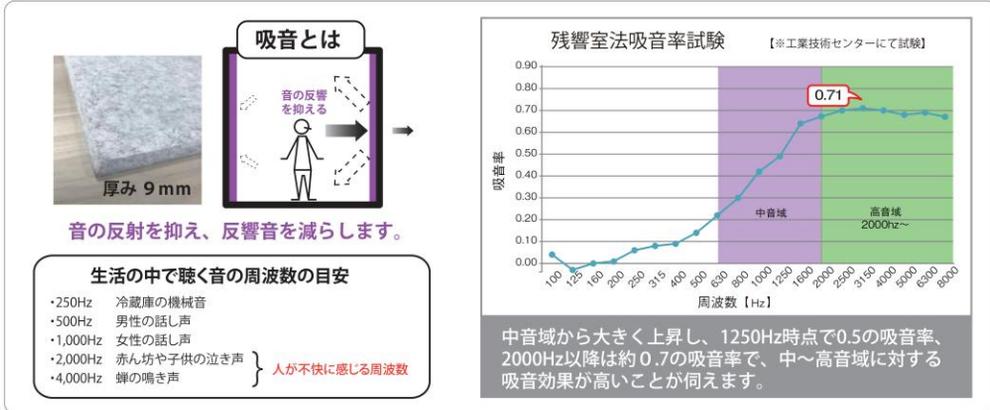
※クロス張りタイプには使用できません

¥700

※防音フェルトボードには使用できません

¥5,400

※防音フェルトボードには使用できません



ソーシャルスペースを機能させる設計

人の気配を感じながら集中



多彩なワークスタイルに形を合わせる集中ワークスペース。
 省スペースながら快適な集中空間を実現。視線屋音を遮断し、多様なワークスタイルに対応する新しいモジュール型ワークスペース

人と環境にやさしい空間創造 ——
株式会社くろがね工作所



Homepage



X



Instagram

東京 〒105-0014 東京都港区芝 1-10-13 芝日景有楽ビル
TEL.03-5439-9111

札幌 〒060-0001 北海道札幌市中央区北一条西7丁目3 北一条第一生命ビル
TEL.011-281-2373

名古屋 〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目20-27 御幸ビル
TEL.052-253-6985

大阪 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町 1-4-24 大阪四ツ橋新町ビル
TEL.06-6538-1012

福岡 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金 1 丁目 2-21 W ビルディング渡辺通
TEL. 092-523-1440